



平成 25 年 9 月 26 日

報道各位

全員ライバル

2013 53rd ACC CM FESTIVAL 総務大臣賞／ACC グランプリは

テレビ CM 部門	ナイキジャパン／ナイキベースボール「宣誓篇」
ラジオ CM 部門	ワコール／企業「まったく同じナレーション」
ME 部門	ダイハツ工業／ムーヴ「その進化は事件だ。」～新型ムーヴ導入キャンペーン

一般社団法人 全日本シーエム放送連盟

一般社団法人全日本シーエム放送連盟（略称 ACC：東京都港区、理事長：高田 坦史）は、今年第 53 回 ACC CM フェスティバル（正式名称「2013 53rd ACC CM FESTIVAL」）に応募された CM 作品 2,097 点（内訳 テレビ：1,520 作品 ラジオ：545 作品 ME32 作品）の中から、総務大臣賞／ACC グランプリに、テレビ CM 部門でナイキジャパン／ナイキベースボール「宣誓篇」、ラジオ CM 部門でワコール／企業「まったく同じナレーション」、マーケティング・エフェクティブネス（ME）部門でダイハツ工業／ムーヴ「その進化は事件だ。」～新型ムーヴ導入キャンペーンを決定いたしました。

また、今年度、テレビ CM 部門に新設した「地域賞」には、＜北海道＞三笠市「三笠市移住促進」シリーズ、＜東北＞テクノロジーネットワークス・ZAQ 無線ホーム LAN「発見！謎の新生物」、＜関東・甲信越・静＞エフ・シー・シー「GO！GO！CLUTCH」、＜北陸・中部＞今西数英教室「企業広告」シリーズ、＜近畿＞大阪ガス・ウィズガス住宅 P.R「光の楽譜篇」、＜中国・四国＞高松高等予備校「企業」、＜九州・沖縄＞福岡県弁護士会「労働問題無料相談」シリーズがそれぞれ選ばれました。

3 部門の総務大臣賞／ACC グランプリ、ゴールド・メダリストの受賞作品は P3～4 に一覧を記載しています（全入賞作品については入賞作品リストをご覧ください）。

ACC CM フェスティバルは 1961 年に創設された、わが国で最も規模が大きく、最も権威のある CM コンクールとして知られています。テレビ CM 部門、ラジオ CM 部門、ME 部門の 3 部門の全国審査会を 9 月初旬～中旬に実施、それぞれ専門の審査員＜別紙注＊1＞が厳正な審査を行いました。（各審査委員長の講評は＜別紙注＊2＞に掲載しております。）

なお、CM での演技力が評価される演技賞には、大内田悠平さん（ナイキジャパン／ナイキベースボール「宣誓篇」）、ロバート・デ・ニーロさん、松田龍平さん（エイベックス・エンタテインメント／d ビデオ「BAR 篇」他）、満島ひかりさん（大塚製薬／カロリーメイトシリーズ、トヨタ自動車／TOYOTOWN シリーズ）、古田新太さん（大和ハウス工業／企業広告シリーズ）、堺雅人さん（トヨタ自動車／TOYOTOWN シリーズ）、吉高由里子さん（ユナイテッドアローズ／UNITED ARROWS green label relaxing「恋するレーベル・やまとなでしこ」篇他）が見事獲得されました。ラジオ CM 部門では、すばらしい“効果音”が評価され、坂本冬美さんがクラフト賞「効果音」（春日井製菓／のどにスッキリ・効果音シリーズ）に輝きました。

また、今回、テレビ CM 部門では、CM の企画力、アイデアのチカラに対して、制作者「個人」へ、エールを送るため、クリエイターズ殿堂受賞者であり、CM プランナーにとって歴史的存在である小田桐昭氏の名前を冠した「小田桐昭賞」を新設。三井不動産リアルティ／三井のリハウス「声鉛筆シリーズ」の制作者である黒田康嗣さん、藤田純平さんに贈られることとなりました。



一般社団法人 全日本シーエム放送連盟

〒105-0004 港区新橋 3-1-11 長友ランディックビル 5F TEL 03-3500-3261

総務大臣賞／ACC グランプリをはじめとする入賞作品の贈賞式・記念パーティは、2013年10月31日（木）に東京・千代田区の有楽町・朝日ホール及び帝国ホテルにて行われます。なお、今年度の入賞作品は11月8日（金）の有楽町・朝日ホールを皮切りに、全国30ヶ所で上映・公開されます。

この件に関するお問い合わせは、ACC事務局 小原までお願いいたします。

一般社団法人全日本シーエム放送連盟

〒105-0004 東京都港区新橋 3-1-11 長友ランディックビル 5F

TEL : 03-3500-3261 FAX : 03-3500-3263

URL <http://www.acc-cm.or.jp>



<テレビCM 総務大臣賞/ACCグランプリ・ゴールド>

賞名	広告主	商品名 題名	広告会社	制作会社
総務大臣賞/ ACCグランプリ	ナイキジャパン	ナイキベースボール 宣誓篇	Widen+Kennedy Tokyo	AOI Pro.
ACCゴールド	エイベックス・エンタテインメント	dビデオ BAR 篇	電通/もり	スプーン
ACCゴールド	大塚製薬	カロリーメイト とどけ、熱量。/新社会人へ	博報堂	AOI Pro.
ACCゴールド	トヨタ自動車	企業 ReBORN 喫茶店篇/大槻町篇/星空篇	シンガタ/ ワンスカイ/ 電通	ギークピクチャーズ
ACCゴールド	大和ハウス工業	企業広告 「ベトナムにも」篇/「新参者」篇	TUGBOAT/ 博報堂	東北新社
ACCゴールド	麒麟ビール	のどご生ノのどご夢のドリーム のどご夢のドリーム4 カンフー	電通	ティー・ワイ・オー
ACCゴールド	トヨタ自動車	クラウン ティザー篇/愛は勝つ篇/未来篇	シンガタ/ トレードマーク/ 電通	ギークピクチャーズ
ACCゴールド	読売新聞東京本社	企業 五輪 僕の走れなかった道篇	電通	ティー・ワイ・オー
ACCゴールド	三井不動産リアルティ	三井のリハウス 声鉛筆「はじめての相続」篇/ 「ファミリー」篇/「母と住む」篇	博報堂	スプーン

<テレビCM部門 地域賞>

地域	広告主	商品名 題名	広告会社	制作会社
北海道	三笠市	三笠市移住促進 スポーツ環境篇/ワイナリー篇/ 鉄道村篇/三笠高校篇	北海道博報堂	エムズファクトリー
東北	テクノロジーネットワークス	ZAQ 無線ホーム LAN 発見! 謎の新生物	博報堂 関西支社	春企画
関東・甲信越・静	エフ・シー・シー	エフ・シー・シー GO! GO! CLUTCH	電通東日本	ビーワンワークス
北陸・中部	今西数英教室	企業広告 夏1/夏2/冬2/クリスマス1/クリスマス2	電通	ウィークス
近畿	大阪ガス	ウイズガス住宅PR 光の楽譜篇	アサツキ ディ・ケイ 関西支社	ティー・ワイ・オー モンスター
中国・四国	学校法人高松高等予備校	企業 企業 パイ篇 寮生募集無し 2012 30 秒	四国博報堂/博報堂	AOI Pro.
九州・沖縄	福岡県弁護士会	労働問題無料相談 リストラ篇/セクハラ篇	電通九州	パイロン

※すぐれたCMが各地で放送され、ローカルクライアントのマーケティング・販促活動がより円滑になるよう、各地のクリエイターが相互啓発するためのツールとしてACC賞が機能するために、同賞テレビ部門に地域賞を創設。



<ラジオCM 総務大臣賞/ACCグランプリ・ゴールド>

賞名	広告主	商品名 題名	広告会社	制作会社
総務大臣賞/ ACC グランプリ	ワコール	企業 「まったく同じナレーション」	電通	エムアイティギャザリング
ACC ゴールド	指宿白水館	指宿白水館 足りなかったイブ	KCR	エフエム鹿児島
ACC ゴールド	日産自動車	安全運転支援システム ミスイク1/2/3	TBWA\HAKUHODO	ビッグフェイス

<マーケティング・エフェクティブネス部門 総務大臣賞/ACCグランプリ・メダリスト>

賞名	広告主	商品名 題名	広告会社	企画 制作会社
総務大臣賞/ ACC グランプリ	ダイハツ工業	ムーヴ 「その進化は事件だ。」～新型ムーヴ導入キャンペーン	博報堂	AOI Pro.
メダリスト	キヤノンマーケティング ジャパン	ミラーレスカメラ キヤノン EOS M Hello, ミラーレス EOS ～EOS M 市場シェア No.1 に向けた拡販キャンペーン	博報堂 TUGBOAT	博報堂 TUGBOAT goen° 東北新社
メダリスト	東芝	LED 東芝LED at ルーヴル美術館 キャンペーン	アサツー ディ・ケイ	ワサビ

以上



<別紙>※参考資料

<注*1> 【2013 53rd ACC CM FESTIVAL 審査員】(敬称略、五十音順)

【テレビ CM 部門】

審査委員長 岡 康道

TUGBOAT

クリエイティブディレクター/CMプランナー/コピーライター

80年早稲田大学法学部卒。同年(株)電通入社。99年クリエイティブ・エージェンシー「TUGBOAT」を設立。東京コピーライターズクラブ会員。NY ADC 会員。LONDON D&AD 会員。ACC グランプリ、TCC 最高賞、ADC 賞、JAAA クリエイター・オブ・ザ・イヤーなど受賞多数。主な著書に、吉田望氏との共著「ブランド I、II」、小田桐昭氏との共著「CM」宣伝会議刊、小田嶋隆氏との共著「いつだって僕たちは途上にいる」(他2冊)講談社刊、エッセイ集「アイデアの直前」河出書房新社刊など。

審査員

- 小田桐 昭 小田桐昭事務所 クリエイティブディレクター、イラストレーター
- 佐々木 宏 シンガタ クリエイティブディレクター
- 佐藤 カズー TBWA\HAKUHODO エグゼクティブ・クリエイティブディレクター
- 澤本 嘉光 電通 エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター/CMプランナー
- 中村 猪佐武 マッキャンエリクソン クリエイティブディレクター
- 永井 一史 HAKUHODO DESIGN 代表取締役社長
アートディレクター/クリエイティブディレクター
- 古川 裕也 電通 コミュニケーション・デザイン・センター長
エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター
- 宮崎 晋 博報堂 チーフクリエイティブオフィサー
- 山田 高之 アサツー ディ・ケイ クリエイティブ・ディレクター/CMプランナー

【ラジオ CM 部門 審査員】

審査委員長 澤本 嘉光

電通 エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター/CMプランナー

1990年電通入社。ACC、TCCを始め、カンヌ、NY フェスティバル等数々受賞。クリエイター・オブ・ザ・イヤーは3度受賞。主な仕事:〔テレビCM〕ソフトバンク「白戸家」、トヨタ自動車「企業 ドラえもん」シリーズなど。〔映画〕「犬と私の10の約束」原作、脚本〔PV〕「魔弾」T.M.Revolution、「アフターダーク」ASIAN KUNG-FU GENERATION〔著書〕「お父さんは同級生」(幻冬舎)など。

審査員

- 井田 万樹子 ペープロ CMプランナー
- 井村 光明 博報堂クリエイティブ・ヴォックス クリエイティブ・ディレクター
- 大久保 佳昭 ビッグフェイス プロデューサー
- クリス・ペプラー TV・ラジオパーソナリティ
- 見目 幸伸 文化放送 CMディレクター
- 権八 成裕 シンガタ CMプランナー
- 中山 佐知子 ランダムハウス コピーライター&ディレクター
- 西田 善太 マガジンハウス BRUTUS 編集長
- 廣瀬 泰三 電通 関西支社 CMプランナー
- 福島 和人 博報堂 エグゼクティブクリエイティブディレクター
- 福本 ゆみ 福本ゆみ事務所 コピーライター/ディレクター
- 細川 美和子 電通 コピーライター
- 山田 美保子 ヒロイン 代表取締役



【ME 部門 審査員】

審査委員長 秋元 康 作詞家

1958年東京都生まれ。高校時代から放送作家として頭角を現し、『ザ・ベストテン』など、数々の番組構成を手がける。83年以降、作詞家として、美空ひばり『川の流れるように』をはじめ、ジェロ『海雪』、AKB48『真夏の Sounds good!』などヒット曲多数。08年第41回日本作詩大賞、12年第54回日本レコード大賞“作詩賞”、13年2月第40回アニー賞長編アニメ部門“音楽賞”を受賞。TV、映画、CM、ゲーム、マンガなど、多岐にわたり活躍中。国民的アイドル“AKB48”グループの総合プロデューサーを務めるなど、常に第一線で活躍するクリエイターとしても知られる。著書に小説『象の背中』ほか多数。映画『着信アリ』（企画・原作）はハリウッドリメイクされ、08年1月『One Missed Call』としてアメリカで公開。また、12年『象の背中』は韓国JTBCでテレビドラマ化。

審査委員長代行 早乙女 治 アサツー ディ・ケイ エグゼクティブ・クリエイティブディレクター
審査員 安藤 元博 博報堂 エンゲージメントビジネスユニット エグゼクティブマーケティングディレクター
池永 忠裕 電通 プロモーションデザイン室長
岡野 宏 キヤノンマーケティングジャパン コミュニケーション本部主席
岡本 善勝 資生堂 CSR 部 環境企画室長
岸 志津江 東京経済大学経営学部教授 日本広告学会会長
島崎 紘而 味の素 理事 広告部制作企画グループ長
田中 里沙 宣伝会議 取締役 編集室長
津山 克則 クリエイターズグループ MAC 代表取締役社長
中井 規之 アサツー ディ・ケイ 執行役員 統合ソリューションセンター総括
藤井 久 博報堂 クリエイティブ戦略企画室長
三浦 武彦 電通クリエイティブ X 代表取締役社長
八塩 圭子 フリーアナウンサー



<注*2>

【審査講評 テレビ CM 部門】 審査委員長 岡 康道 氏

今年の審査員は全員 CD です。全員ライバルです。組織やチームを担うために、その責任を果たす投票をやめようと思ったからです。(簡単に言えば、無意識的組織票の撤廃)。十分に議論するため人数をぐっと少なくしました。10人の審査委員。重鎮になりがちな構成を、若手 CD 3名で食い止めました。

テーマは「審査はメッセージである」。

CM の完成度や、GRP を含めた世の中への影響力よりも、「メッセージを発したか否か」が問われ続けた審査でした。

グランプリは、ナイキ。しばらくぶりに、ナイキが帰って来てくれました。

オリンピックに向かう「黄金の7年」。スタートの年の ACC。この審査結果が、新しい広告への選手宣誓になることを祈っています。

【審査講評 ラジオ CM 部門】 審査委員長 澤本 嘉光 氏

ラジオは、昨年と比べて、選ばれたものの1本1本のアイデアの質は高くなっている。

逆に、昨年の審査委員長賞のような、特別なクルマを作って街で音を拾って、それをそのままラジオ CM に、というような大きな仕組みで戦ったものが少ない。これを両立出来れば、もっとラジオという媒体自体が盛り上がるのだろう。

7年後の東京五輪。これをきっかけにいろいろなものの再構築が進むと思われるがぜひ、その一つにラジオというものも入っていけるといいと思う。

ラジオ CM を、もっと若手の登竜門的にも活躍していきたいとおもうが、それは僕がここでブーブーいうだけではなく、ラジオ局全局でなにかムーブメントをおこす、ような、本気感が必要だと思う。

今その本気感はまだない。その局自体の本気感はきっと CM にも伝わっていくと思う。

【審査講評 マーケティング・エフェクティブネス部門】 審査委員長 秋元 康 氏

企業と消費者の関係性が変わったと思う。「企業側にもいろいろ事情があるだろうけど、本音で言っ
ていいよ。怒ったりしないから」。消費者はやさしく、そして、シビアに言っている。かくして、企業側も「じゃあ、正直に言いますよ・・・」と語り始める。例えば、ダイハツ工業のムーヴ。「低燃費、低価格はわかったから、他に何があるの?」。例えば、キヤノンのミラーレスカメラ EOS M。「キヤノンのミラーレスカメラって、最後発売なんだよね? もういっぱい出てるし、何か、自信あるんでしょ?」。例えば、東芝の LED。「ルーブル美術館で採用されたんでしょ? そりゃあ、いいに決まってるじゃない?」。そんな消費者の声を真摯に受け止め、その答えを用意した企業だけにマーケティング・エフェクティブネスが与えられたような気がする。



【今年度 ACC CM FESTIVAL 概要】

名 称 : 「2013 53rd ACC CM FESTIVAL」

全国から応募された 2,097 点 (内訳 テレビ:1,520 作品 ラジオ:545 作品 ME32 作品) の作品の中から、テレビ CM 部門・ラジオ CM 部門・ME 部門の総務大臣賞/ACC グランプリをはじめとする入賞作品が決まりました。なお、テレビ CM 部門に「地域賞」を新設し、7 地域からそれぞれ 1 本ずつ「地域賞」を選出しました。

＜テレビ CM 部門＞

審査対象：2012 年 7 月 1 日から 2013 年 6 月 30 日までに日本民間放送連盟に加入している放送局において初放送されたテレビ CM

地域審査会：7 月下旬～8 月中旬に全国 7 地区で審査

全国審査会：9 月 2～10 日 (一次審査)、19 日、20 日

入賞作品の内訳：

テレビ (応募総数 1520 本)	総務大臣賞/ACC グランプリ	1
	ACC ゴールド	8
	ACC シルバー	8
	ACC ブロンズ	25
	ACC ファイナリスト	77

地域賞 7 賞
ACC 地域ファイナリスト 100 本

＜ラジオ CM 部門＞

審査対象：2012 年 7 月 1 日から 2013 年 6 月 30 日までに日本民間放送連盟に加入している放送局において初放送されたラジオ CM

地域審査会：8 月初旬～中旬に全国 7 地区で審査

全国審査会：9 月 3、6、9 日

入賞作品の内訳：

ラジオ (応募総数 545 本)	総務大臣賞/ACC グランプリ	1
	ACC ゴールド	2
	ACC シルバー	5
	ACC ブロンズ	13
	ACC ファイナリスト	29

ACC 地域ファイナリスト 35 本

＜ME 部門＞

審査対象：CM を中心に戦略的かつ効果的な広告活動を展開した企画で、日本民間放送連盟に加入している放送局において、テレビ CM ないしラジオ CM が初放送されたもの (2012 年 6 月末以前に終了している企画は応募不可)。

審査会：9 月 4 日、11 日

入賞作品の内訳：

マーケティング・ エフェクティブネス (応募総数 32 本)	総務大臣賞/ACC グランプリ	1
	メダリスト	2

以上